



LETTERS

2018 年 10 月発行

公益財団法人
佐倉国際交流基金

〒285-0025
佐倉市鑓木町 198 番地 2
TEL・FAX 043-484-6326

創立30周年記念号

設立 30 周年記念祝辞

佐倉市長 蔵 和雄



この度、公益財団法人 佐倉国際交流基金が設立30周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

佐倉国際交流基金の皆様におかれましては、昭和63年の設立以来、佐倉市国際文化大学や国際スピーチコンテストなど、国際意識向上のための講座やイベントの開催など、様々な事業を継続的に企画・実施していただき、心から敬意を表するとともに、深く御礼申し上げます。これらの活動が、市民ボランティアの方々が中心となって運営されていることは、大変すばらしい市民公益活動の実践と考えております。

佐倉市在住の外国人住民は、年々増加の傾向となっており、平成 30 年には 3,000 人を超え、国籍も多様化しております。

昨今、技術や経済、情報のグローバル化が急激に進む中で、誰もが国際的な価値観や感性を養うことが必要とされる時代となり、言語や習慣が異なる人々がお互いを認め協力し合い、共に暮らすことは活力ある多文化共生社会の基盤となっております。地域レベルの交流は、異文化の理解等諸外国との相互理解を促進し、平和への礎となるとともに、佐倉市の価値や魅力を改めて発見する機会でもございます。これからも多文化共生社会の地域づくりを目指して、貴財団が当市の国際化、更には地域活性化をより加速する原動力となることと期待しております。

結びに、これまで貴財団の運営に携わってこられた多くの役員、ボランティア、賛助会員の皆様に敬意を表するとともに、皆様のご健勝と、益々のご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉いたします。

—— ご 挨拶 ——

(公財) 佐倉国際交流基金代表理事 宍倉 昌男



佐倉国際交流基金の活動に深いご理解と多大なご支援を賜り、厚くお礼を申し上げます。

佐倉国際交流基金は、1988 年（昭和 63 年）11 月に、佐倉の歴史・文化・自然を誇りとし、外国人の方にも住みやすい多文化共生社会の実現をめざして、国際相互理解・国際親善・国際協力等の事業を推進するため、佐倉市の出資と市民のご寄付によって、国際交流関係では千葉県初の財団法人として設立されました。爾来 30 年、訪日外国人旅行者数は 2,900 万人、外国人労働者数は 108 万人、いずれも 30 年前の 10 倍以上になっています。佐倉市在住の外国人も年々増加しており、現在、人口の 1.8%、約 3,100 人の外国人が住んでいます。日本にとって、佐倉市にとって、外国人の存在が益々重要になってきており、佐倉国際交流基金の活動も、外国人支援の比重が高まっています。

2011 年（平成 23 年）4 月には、社会的信用の証である公益財団法人の認定を受けました。マイナス金利政策の影響を受けて、厳しい財政状況が続くなどの課題もありますが、多くのボランティアの皆様のお力をお借りして、時代の変化を先取りした地域の国際化と、魅力溢れる多文化共生「佐倉」の実現に向けた活動を続けてまいりますので、倍旧のご理解とご協賛を賜りたくお願い申し上げます。



設立 30 周年記念祝辞

佐倉市議会議員 櫻井 道夫



公益財団法人 佐倉国際交流基金が設立 30 周年を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。

佐倉国際交流基金は、昭和 63 年の設立以来、長きに亘り、様々な国際化推進事業を展開され、佐倉市の国際化を牽引されております。これもひとえに歴代の理事・評議員の方々をはじめ、賛助会員の皆様、ボランティアの皆様の支援・ご協力によるものと深く感謝申し上げます。

佐倉市は成田国際空港にほど近く、2020 年東京オリンピック・アメリカ陸上チームの事前キャンプ地に決定されており、東京オリンピック・パラリンピックを契機といたしまして、今後、異文化交流の機会がますます増えてくるものと考えます。

市民レベルの国際交流がますます重要となるこれからの佐倉市にとって、地域の国際交流活動を推進する貴団体に対する期待と役割は、ますます大きくなってまいります。

設立 30 周年を一つの節目として、今後とも、貴財団が、国際交流の中核的な団体として、更なる飛躍を遂げられますことを期待しております。

最後になりましたが、これまで御尽力をいただきました佐倉国際交流基金の関係者の皆様の益々のご活躍とご発展をお祈りいたしまして、祝辞とさせていただきます。

設立 30 周年記念祝辞

前理事長 櫻井 英一



佐倉国際交流基金設立 30 年を記念してお祝辞を申し上げます。
昭和 63 年当時の社会情勢を踏まえた、行政指導の基に、財団法人佐倉国際交流基金が誕生しました。

往時は高度経済成長の真ただ中にあり市内にも外国人の姿も見え始め国際社会との交流促進の必要性を認識しながらも交流活動は模索状態でありました。平成 2 年高度経済成長期に育まれた多くの市民を対象とした生涯学習の一環として、国際学習の向上を目指し「佐倉市国際文化大学」が誕生したのでありました。大学講義の評価も高く、好評のうちに進み、運営も行政依存から脱却、当初の目標であったボランティアによる事務局組織を設立し、国際文化大学以外の各種事業にも意欲的に取り組み好成績を収めてきました。関係者各位のご尽力には心から敬意を表する次第であります。

近年、地球社会は混乱期にあると言われ、第 2 次大戦後最大の転換期にあると言われてい
ます。欧米諸国は中国もやがて民主化が進み、自由と民主主義を基盤とする世界秩序に同化
すると考えられていましたが、中国が全国人民代表大会で、独自の価値観に基づく新しい世
界秩序造りに着手することを宣言してから、世界は、異なる価値観に基づく二つのシステム、
即ち「自由・民主主義システム」と「新・中華システム」との競争時代に突入したのかもしれ
ません。国際社会に生きる日本にとっては重要な問題であり、この様な情勢下にあつて国
際情勢に取り組むのも大変なことと思います。

交流基金の今後のご活躍を祈念申し上げご挨拶とします。

基金 (SIEF) 30 年のあゆみ

年号	主な事業活動
S63 年 (1988 年)	11 月第 1 回 (財) 佐倉国際交流基金理事会発足 (理事長 立崎 浩 就任) 11 月 10 日 (財) 佐倉国際交流基金設立 (佐倉市役所商工観光課内に事務所を置く) ・ 設立記念講演会 フランソワーズ・モリヤン「国際化時代におけるライフスタイル」開催 ・ 賛助会員体制づくりの会設置、賛助会員の募集を開始 他 [助成事業]・佐倉日蘭協会オランダ語講座、佐倉ユネスコ協会英会話教室への支援
S64 年 平成元年 (1989 年)	(財) 佐倉国際交流基金評議員会発足 ・ 第 1 回英語スピーチコンテスト開催 題「英語で語れ！自分のまち」入賞者はオランダ訪問 ・ 共催事業 佐倉日蘭協会と「新春交流パーティー」 佐倉市と「ニュージーランド、アメリカ」海外派遣 ・ 第 1 回佐倉国際印旛沼花火大会に参画 他 [助成事業]・アウシュビッツ展・ポートマクワリー市少年オーケストラと西志津中学校生徒の交流・ボーイスカウト佐倉第 1 団の台湾派遣・オランダ児童交流のつどいなど
H2 年 (1990 年)	・ 佐倉市国際文化大学開講 (総長 菊間 健夫 学長 立崎 浩 就任) 第 1 回 ・ 高校生、一般市民を対象に「国際交流論文」を募集 他 [助成事業]・子供中央交流フェスティバル・佐倉国際印旛沼花火大会・日米親善少年レスリング大会・サクラシティブラスバンド・スペイン語講座・日本語講座・オランダ語同好会・佐倉ユネスコ協会など
H3 年 (1991 年)	・ オランダへの児童派遣事業 ・ 中学生による海外在住経験者の懇談会 他 [助成事業]・佐倉国際印旛沼花火大会・「アムステルダムと佐倉小、佐倉中、市民アンサンブルによるリコーダー」演奏講習会・日韓親善レスリング大会・ボーイスカウト台湾派遣・日米親善少年野球チーム海外派遣・西志津ポートマクワリー訪問団・佐倉ユネスコ協会設立 10 周年記念事業など
H4 年 (1992 年)	・ 佐倉新春国際交流パーティー ・ オランダへの児童派遣事業 ・ 国際交流ボランティアバンク事業開始 他 [助成事業] オランダ語研究会・オランダ語同好会・スペイン語同好会・商工会議所日本語、中国語講座・佐倉国際印旛沼花火大会・ちいさな外交官・日韓親善少年レスリング・少年軟式野球中国遠征・世界家庭料理とお菓子講座など
H5 年 (1993 年)	・ 日本語講座、語学入門講座事業開催 ・ アメリカ東海岸の旅を実施 ・ 公開講演会 (国際理解) 実施 ・ オランダへの児童派遣事業 他 [助成事業]・北米合衆国に於ける能楽講演事業など
H6 年 (1994 年)	4 月 (財) 佐倉国際交流基金 (理事長 田中 勘一 就任) ・ 中学生海外探訪の旅 (スピーチコンテスト優秀者をバンクーバー、シアトルへ)・オランダ児童交流 他 [助成事業]・テレビ電波交流事業・佐倉に住む外国人と親しくなる会事業など



H7 年 (1995 年)	・ 中学生海外探訪の旅（スピーチコンテスト優秀者をサンタバーバラ、サンフランシスコへ） ・ 国際交流パーティー ・ オランダへの児童派遣事業 他 〔助成事業〕・佐倉城薪能事業・佐倉エストニア交流合唱団事業の助成など
H8 年 (1996 年)	・ 第 8 回佐倉中学生国際スピーチコンテスト ・ 中学生海外探訪の旅 ・ オランダへの児童派遣事業 他 〔助成事業〕・日本、スリランカ文化福祉交流事業など
H9 年 (1997 年)	・ 中学生海外探訪の旅 ・ オランダへの児童派遣事業 他 〔助成事業〕・ローバウンドボール世界大会・国際シェベルト合唱フェスティバル・ブラジル国能楽公演・韓国との交流など
H10 年 (1998 年)	・ 国際交流ボランティアのつどい ・ オランダへの児童派遣事業 ・ 外国人のためのバスツアー 他 〔助成事業〕・日本の伝統文化「きもの」紹介・エスニックコンサート千葉'98・国際カー選手権大会
H11 年 (1999 年)	・ 中学生海外探訪の旅 ・ オランダとの児童交流 他 〔助成事業〕・オーストラリア少年少女オーケストラとの交流・モンゴル訪問事業・インドの親子へ図書室の開設援助など
H12 年 (2000 年)	・ 中学生海外探訪の旅（アメリカ ヘスペリア） ・ オランダとの児童交流 他 〔助成事業〕・異文化体験体感の共有（スリランカ）など
H13 年 (2001 年)	・ 佐倉市国際文化大学 第 12 回 ・ 第 13 回佐倉中学生国際スピーチコンテスト ・ オランダとの児童交流 他 〔助成事業〕・佐倉市日中友好協会西安市親善訪問・スロヴァキア男声合唱団交流演奏会など
H14 年 (2002 年)	4 月（財）佐倉国際交流基金（理事長 櫻井 英一 就任） ・ オランダとの児童交流 他 〔助成事業〕・異文化交流の集い・訪日中国青年友好平和使節団・テラブレーション IN SAKURA 2002・日中国交回復 30 周年記念芸術文化交流・ボーイスカウト交流・カナダ招聘講演（大型人形劇）・モンゴル音楽コンサート・ジャパソウィークチェコプラハなど
H15 年 (2003 年)	4 月（財）佐倉国際交流基金事務所をレイホープラザ佐倉（錦木町 198-2）に開設 ・ 国際交流パーティー（クリスマスパーティー） ・ ホストファミリー ・ オランダとの児童交流 他 〔助成事業〕上海市親善訪問・スペイン、オーストラリア花火師との交流・オランダ語の学習と日蘭交流・チャリティ平和コンサートイラクの子供たちへ・インド農村とイスラム地域へ図書室、婦人学級の開設・野球親善大使海外派遣・中国語初級会話・韓国との交流・文化交流フェスティバルジャパソウィークイスタンブール・I.T テレビ電話交流・ハンガールランハ会・佐倉フランス語の会新春音楽会など
H16 年 (2004 年)	・ 基金設立満 15 周年記念講演会 ・ 佐倉国際スピーチコンテスト第 16 回 ・ 佐倉国際交流パーティー ・ オランダとの児童交流 他 佐倉市民の国際交流事業に対する助成金の支給など

H17 年 (2005 年)	・ 佐倉インターナショナルフェスタ ・ 異文化交流授業協力 ・ オランダとの児童交流 他 佐倉市民の国際交流事業に対する助成金の支給など
H18 年 (2006 年)	・ 佐倉インターナショナルフェスタ ・ オランダとの児童交流 他 ・ 異文化交流授業協力（市民カレッジへ外国人英国・スウェーデン・中国のボランティア派遣） 佐倉市民の国際交流事業に対する助成金の支給など
H19 年 (2007 年)	・ 日米修好通商条約締結 150 周年記念講演会、企画展 ・ 異文化交流支援（市民カレッジへ外国人モルドバ・スウェーデン・中国のボランティア派遣） ・ 外国人児童の授業援助、日本語指導 ・ オランダとの児童交流 他 佐倉市民の国際交流事業に対する助成金の支給など
H20 年 (2008 年)	・ 佐倉国際交流基金 20 周年 ・ 日米修好通商条約 150 周年記念講演会 ・ 第 1 回佐倉みんなの〈楽しい〉英語 ・ 「外国人の人権問題」 ・ 佐倉日蘭協会児童交流助成 ・ 外国人児童に対する日本語指導並びに授業援助活動 他 〔助成事業〕・佐倉市日中友好協会・ポルトガル語同好会・中国語中級会話学習・IT 電話国際交流・話せるハングル会・韓国との交流・ハングルサラン会・OK バジ こと垣見一雅さん帰国講演会・中国語の学習及び中国との交流活動・子どもがつくるまちにさくら 2009・オランダ語の学習を通じ日蘭交流を図る
H21 年 (2009 年)	・ 佐倉異文化交流の集い ・ 外国人のための生活相談 ・ 外国人のための日本語講座 ・ 外国人児童に対する日本語指導並びに授業援助活動 ・ 佐倉日蘭協会児童交流助成 他 〔助成事業〕・ポルトガル語同好会・話せるハングル会・韓国との交流・中国語中級会話学習。ハングルサラン会・佐倉市日中友好協会北京瀋陽親善訪問・OK バジ こと垣見一雅さん帰国講演会・子どもがつくるまちにさくら 2010・中国語の学習及び中国との交流活動・IT 電話国際交流など
H22 年 (2010 年)	・ 第 3 回佐倉みんなの〈楽しい〉英語 ・ 佐倉異文化交流の集い 他 〔助成事業〕・ポルトガル語同好会・佐倉日蘭協会・中国語中級会話学習。ハングルサラン会・佐倉市日中友好協会・ネパール支援・子どもがつくるまちにさくら 2011・IT 電話国際交流・オランダ語の学習を通じ日蘭交流を図る・佐倉中文会・韓国語学習・すてきな日本語など
H23 年 (2011 年)	・ 公益財団法人認定 ・ 国際理解講演会 他 〔助成事業〕・ポルトガル語同好会・初級佐倉ハングル会・中国語中級会話学習・ハングルサラン会・佐倉市日中友好協会・ネパール支援・IT 電話国際交流・オランダ語の学習を通じ日蘭交流を図る・佐倉中文会・韓国語学習・すてきな日本語・佐倉日蘭協会など



H24 年 (2012 年)	・ イングリッシュサロン 第 1 回 他 〔助成事業〕・佐倉ポルトガル語同好会・中国語中級会話学習・佐倉市日中友好協会・ネパール支援・子どもがつくるまちにさくら 2013・オランダ語の学習を通じ日蘭交流を図る・佐倉中文会・佐倉かたりべの会・佐倉県立佐倉高校・佐倉日蘭協会・IT 電話国際交流など
H25 年 (2013 年)	・ 佐倉国際交流基金 25 周年 ・ 外国人のための日本語講座 バス研修旅行（佐原・香取神宮）他 〔助成事業〕・佐倉ポルトガル語同好会・中国語中級会話学習・佐倉市日中友好協会・ネパール支援・佐倉中文会・佐倉かたりべの会・佐倉日蘭協会・NPO 佐倉こどもステーション 
H26 年 (2014 年)	 ・ 佐倉国際交流のつどい ・ 国際交流情報提供 他 〔助成事業〕・佐倉ポルトガル語同好会・中国語中級会話学習・佐倉市日中友好協会・ネパール支援・佐倉中文会・佐倉日蘭協会など
H27 年 (2015 年)	・ 第 27 回佐倉国際スピーチコンテスト ・ 外国人のための日本語講座 バス研修旅行（牛久観音・水戸偕楽園） 他 〔助成事業〕・佐倉ポルトガル語同好会・中国語中級会話学習・佐倉市日中友好協会・ネパール支援・佐倉中文会・佐倉日蘭協会など 
H28 年 (2016 年)	・ 佐倉市国際文化大学 第 27 回 ・ 外国人のための生活相談 ・ 外国人のための日本語講座 他 〔助成事業〕・佐倉ポルトガル語同好会・中国語中級会話学習・佐倉市日中友好協会・ネパール支援・佐倉中文会・佐倉日蘭協会など
H29 年 (2017 年)	 ・ 外国人のための生活相談 ・ 外国人のための日本語講座（第 1 回 日本語講座のつどい） 他 〔助成事業〕・佐倉ポルトガル語同好会・中国語中級会話学習・佐倉市日中友好協会・ネパール支援・佐倉中文会・佐倉日蘭協会・佐倉ジュニア合唱団など
H30 年 (2018 年)	・ 佐倉国際交流基金 30 周年 ・ 第 30 回佐倉国際スピーチコンテスト ・ イングリッシュサロン 第 7 回 他 〔助成事業〕・佐倉ポルトガル語同好会・中国語中級会話学習・佐倉市日中友好協会・ネパール支援・佐倉中文会・佐倉日蘭協会など 

事業のご紹介

佐倉市国際文化大学

佐倉市国際文化大学副学長 高橋 満

佐倉市国際文化大学(以下 文大と呼ぶ)は基金設立の翌々年、1990 年に開講されました。国際情勢と国際交流の原理を学ぶ。これが文大開設の主旨でした。文大設立の提案が女性理事だったこともあってか、開校時の事務局員も女性だけでした。

当時のカリキュラムには「基本講座」と称して、「外国人接遇の方法」、「国際間コミュニケーションの心得」といったようなテーマが並んでいます。「成田国際観光モデル地区」に指定された当時の様子が眼に浮かび、なんとなくおおらかなものを感じます。

受講生も女性が多く、開講から 5 年ほどの間は女性が過半を占めていましたが、徐々に男性多数に逆転していきます。志津・臼井地区を中心に都内に勤務する男性が多くなり、この人達が引退すると共に生涯学習の場を文大に求めてきた、このような事情が背景にあったようです。今では男性比率が 80%を超えており、これが文大の大きな特徴にもなっています。

文大開講は日本経済のバブル崩壊や、ソ連邦の崩壊という世界の大きな転換と重なり、「グローバル化」が、これまで以上に強く言われるようになった時代でした。こうした政治経済の大きな転換と共に受講生の関心も変化してきました。

現在のカリキュラム編成は、「世界の動きが日本に及ぼす影響は?」、「日本の変化は世界とどのように関係し合うか?」、「多文化共生への対応は?」といったような、我々を取り巻く世界の変化に眼を向けるテーマが中心を占めるようになっています。

開講から 10 年を過ぎる辺りから、海外勤務を経験した受講生が増加し、その比率も 20%を超えるようになってきた、そんなことも影響しているようです。



2019 年の来年、文大は 30 周年を迎えます。この間、年間 22 回の講座を土曜日の午後に行う、すべてボランティアで運営する、毎年新しいテーマに挑戦する、という原則は変わっていません。大きな変化と言えば、12 年目の講座から「ゼミ研究」と称する課外学習の制度を始めたことが挙げられます。講師の話を聴くという受け身の学習形式だけでなく、自分達でテーマを決め・自分達で情報収集・学習するという自主的な学習スタイルです。受講生の皆さんには時間的にも大きな負担になるため、参加率には課題が残っていますが、この特徴ある学習が充実することを願っています。

一方、高齢化と人口減少という問題は、文大の運営にも大きな影響を及ぼしつつあります。生涯学習という分野では、市主催の講座でも、2~3 年ほど前から、応募者の減少が大きな課題になっています。定員を満たすことが出来ない講座も出ています。幸い文大は、継続受講する方が多いため、同様な問題は発生していませんが、長期的には対応策が必要です。

振返って文大の強みは何かを考えると、ボランティアが支えて 30 年、特徴のある講座内容、日本全国を見渡しても珍しい実践事例、等々があげられます。また、佐倉市周辺の市民からは、「我が街にも、このような講座があれば・・・」という声も聞きます。公益財団法人に求められる役割という視点からも、受講生募集の範囲を広げ、更に充実した文大にしていきたいと考えています。

文大がこれまで続けてくることができたのは、無償で会場を利用させていただく公民館をはじめ、市の関係部門の強力な支援があつてのこと。最後に、心からの感謝を申し上げます。

佐倉国際スピーチコンテスト

スピーチコンテスト前運営委員長 岡村 美智子

平成元年(1989 年)にスタートしたスピーチコンテストも、今年 9 月 30 日に記念すべき第 30 回を迎えます。



当初は中学生だけの英語部門と日本語部門の 2 部門で、英語又は日本語で自分の意見を述べるスピーチのコンテストでした。レシテーションや小学生の部はありませんでした。会場も毎年変わり、参加人数も少ない時は一桁という年もありました。利息が高い時代で、最優秀賞は英語・日本語の部門ともにオランダやアメリカ旅行という今では信じ難い年度も数年間ありました。

その後、中学生の日本語スピーチは無くなり、英語のレシテーションを加え、さらに審査はありませんが小学生の部、外国人の日本語の部が加わり、共催である佐倉市のご協力を頂き会場も毎回ミレニアムセンター佐倉という安定した状態が長く続いています。

スピーチコンテストの目的は、小・中学生の英語のコミュニケーション能力の向上のため、自分の考えや、テキストなど既成の英文を暗記し、それを聴衆の前で堂々と発表する:その過程で外国の文化や国際交流への理解・関心を高めることです。英語力、思考力、瞬発力などの向上に関してはディベート(debate)コンテストには叶いませんが、中学生、小学生にとっては、スピーチコンテストは誰でも参加出来、準備などの負担の少ないもっとも良い方法と考えられます。小・中学生の時に努力し暗記した語彙・英文は大人になっても何かにつけて口から出てきます。スピーチコンテストのお陰で外国文化、英語への関心が大きく増した、将来への道を開ききっかけになった、参加して良かった、などという過去の参加者からの声を多く耳にします。事実、第一回の参加者は 40 歳を越えています、メディアなどで素晴らしい活躍ぶりを見聞きするにつけ、嬉しく意を強くします。

反省点もあります。小学生、中学生とも参加者は申し込み先着順で決めていましたが、数年前に、小学生のみ(私共委員の意に反して)抽選となりました。それにより同時に申し込んだ姉妹や友人が一人落選して悲しい思いをした方も辞退した、折角子供と話し合い申し込みをしても参加できるかどうか締め切りまでかなり経たないとわからない、抽選に外れる挫折感を恐れ参加意欲が失せてしまった、、、等のお声を頂き、あれだけ多かった小学生の参加申込者が激減してしまいました。小学生のレベルが劇的に上がっていた折りだけに、本当に残念で悔やまれました。昨年からは先着順に戻されました。

又、外国人による日本語部門は、来日生活での苦労話など会場の涙や笑いを誘う良き「ひととき」ではありましたが、定員 5 名ながらここ数年参加者が 3 名程度で、日本語を指導される先生のご負担や時間配分の面などの関係から、廃止され今年は英語だけのスピーチ大会になりました。このスピーチコンテストは 30 年続き、地域の小中学生ばかりでなく、他地区でも評価を頂きグローバル化の中、国際語としての重要性の高まる英語学習への効果的なインセンティブとしても役目を果たしていると考えます。

今後の願いとして、皆で話し合い、知恵を絞り、正に「不易流行」！！
変えるべきものは勇気を持って変え、変えずに守るべきものはしっかり守りながら、(公益財団法人)佐倉国際交流基金の貴重な行事の一つとして、出来れば近隣の視覚障害者校等にもお声をかけ、普く(あまねく)、全ての志ある若者のために、スピーチコンテストがより良き発展をしながら、これから先 50 周年、70 周年と長く続きますよう祈念するばかりです。

1.イングリッシュサロンの歴史

イングリッシュサロンの前身である佐倉みんなの〈楽しい〉英語は 2008 年に始まりました。年 1 回のイベントで、午前中はミレニアムセンター佐倉の大ホールの舞台上でいくつかの団体が英語劇、ダンス、歌等を披露し、午後は子供たちは英語ゲーム、大人達はレベル別に4クラスに分かれてサロンを行いました。2009 年、2010 年にも同様のイベントを行い、毎回250名程度の参加者を得ました。

2011 年は 東北大震災により中止となりましたが、2012 年からは午後のサロンの部分を独立させ、イングリッシュサロンが開始されました。2012 年のクラスは年 4 回でしたが、翌年は 6 回、翌々年は 10 回とクラスの開催数を増やし、参加者は年々増えていきました。2014 年には運営をスムーズに進めるために、新運営委員会体制が発足し、現在まで順調に事業の拡大が進んできました。その後も参加希望者は増え続け、クラス数を増加し、ファシリテーターも 2 名から 3 名に増やし、また 2 クラス受講の要望も実現しました。

昨年は、年 10 回 120 クラスを行い、参加者は約 134 名となりました。今年度は場所の問題などからやや希望者が減るのではということ を考慮し、参加費を多少値上げいたしました。年 10 回 120 クラスで参加者は 130 名、3 名のファシリテーターと 8 名の運営委員を中心に楽しく活動を行っています。

2. 現在実施している事業の内容・特徴・課題

外国人と英語のコミュニケーションを体験することによって、外国人と気楽に会話ができるようになり、外国人と日本人が仲良く暮らせる多文化共生社会の実現を目指すため、英語を使って外国人との会話を楽しむサロンです。外国人をファシリテーターと呼び、英会話の先生ではなく、“facilitate conversation” 会話を途切れないうようにする人という意味です。



毎回サロンで話すトピックは予め決められており、各自トピックに沿って発表内容を準備することができます。その後、各自発表するのですが(できるだけ原稿を読まないのが望ましい)、お互いに英語で質問し、それに英語で答えます。文章がおかしければファシリテーターが直してくれることもしばしばです。英語の上手な人はその人なりに話し、上手ではない人はファシリテーターの手助けを得て話をします。レベル別のサロン創設の要望がありますが、上記を考慮すればその必要はないと判断していますが、今後の課題の一つと考えています。

メンバーの中には さらに勉強したいという要望があり、自主サロンの形で毎月第 2 土曜日 10:30 から、西部保健福祉センターで同様なサロンを開催して 2 年になります。今年度は 10 月開始の翌年 9 月終了で、現在 26 名参加希望者がおります。ファシリテーターは 2 名です。

3. 今後の方針(展望)

まずは、サロンの運営をスムーズに行うのが第1です。サロンの規模はこの程度でよいと思いますが、サロンの中身を充実させるために、時間配分をファシリテーターにさらに配慮をお願いしています。

昨年クリスマス会に日本語講座の外国人を招待しましたが、この定着に努めていきます。さらに日本文化の代表的なお花見を、日本語講座の外国人と一緒にすることを、運営委員会の賛成を得て、実現に努力してみたいと思います。

1. 日本語講座の開設の時期や状況

外国人のための日本語講座は、1993 年から佐倉市の事業委託を受けてスタートし、現在に到っています。



講座が始まった当初は木曜日と金曜日の講座だけだったのですが、2012 年に日曜日の講座が加わりました。日曜日の講座は、それまで市民ボランティアの方々により運営されていた教室を日本語講座に統合したものです。さらに 2013 年には土曜日の日本語サロンがスタート、そして 2017 年には小・中学生向けの日本語講座「AIUE さくら」が新たに開設されました。

日本語講座がスタートした当初は、各教室の運営はそれぞれの教室のボランティアの方に任せられ、それぞれの独立性が高い運営がなされていましたが、2014 年の秋に、日本語講座運営委員会が設置され、まとまった方針や考え方のもと組織的な運営を目指すことになりました。

日本語講座運営委員会が発足してこの秋でちょうど 4 年になりますが、近年では、市外へのバス研修や日本語講座のつどいの開催など、クラスの垣根を越えた活動などを通じて、異なったクラスの学習者相互やボランティア相互間の交流も活発になりつつあります。

2. 現在の状況

現在、SIEF の日本語講座では、大人の方向けに木曜、金曜、土曜と日曜日に合計 8 クラスを開設しています。場所は志津コミュニティセンター、ミレニアムセンター佐倉、レインボープラザ佐倉、佐倉中央公民館を利用しています。また、小中学生向けのクラスとして、土曜日に千代田・染井野ふれあいセンターで学習支援を行っています。

各クラスごとに数名のボランティア講師が授業を担当しており、各クラスでは、日本語のレベルによってグループに分かれて日本語を学習します。講座の時間・場所・レベル等は様々ですから、学習者は自分の住所や勤務先の場所などを考えて、最も都合の良い講座を選ぶことができます。また、木曜日の教室にはベビーシッター制度がありますので、小さな子供がいる方でも気軽に参加できます。

現在活動中の日本語ボランティア講師は、約 30 名、ボランティアベビーシッターは 7 名です。一方、昨年度の各講座で日本語を学んでいる外国人学習者の延べ人数は、27 か国で 2,257 人となっており、参加者は年々増え続けています。

3. 今後の展望

日本は現在、人口減少の時代に入る一方、日本で暮らす外国人の数は増加の一途をたどり、2017 年末現在では約 250 万人となっています。政府や企業も、労働力の確保という観点から、外国人の受入には積極的になっていますので、日本で生活する外国人はこれからも増加の一途をたどるものと考えられます。使用言語はもちろん、歴史や文化、生活環境が異なる外国の人々が日本に住み、日本人と仲良く一緒に暮らしていくためには、日本語を理解し日本人とコミュニケーションができるようになることが極めて重要なことです。こういった観点から、多くの外国人が日本語講座に参加し、また多くの日本人が、ボランティアとしてこの事業に関わることでお互いの接点を広げ、相互理解に少しでも貢献できるようになることを目指しています。



外国人のための生活相談

外国人のための生活相談は、日本語講座とともに、佐倉市からの委託事業として、1993年(平成5年)に開始しました。開設当初から2014年までは、英語、中国語、スペイン語、それぞれ1名の生活相談員が、週に1回交流基金事務所に待機し、外国人が佐倉で生活する上でわからないことや困ったことなどの相談を受けていました。事務所での面談および電話対応が主な活動でしたが、指定された曜日に来所する外国人の数が少ないことが課題でした。

2015年に相談員体制を一新し、各言語2名、計6名の生活相談員を配置し、それぞれ月4回電話対応のために自宅待機してもらい、電話相談や面談の要望に対応し、市役所から依頼があれば、職員とともに、外国人が必要とする場所に出かけて行き、外国人を直接支援するようにしました。具体的には、病院や学校での通訳や、申請書類の翻訳、進学相談などを、事務所や指定された場所で実施しています。また、指定された相談日と関係なく、外国人が直接事務所に来て、面談を希望するケースが多いため、日本語あるいは対応可能な言語の場合には、事務局員が相談員として直接面談しています。

このような体制、方法で、年間80件から100件程度の面談、支援活動を行っています。また、相談活動とは別に、相談員全員と事務局員で、毎月1回交流会議を開き、活動状況の共有と生活相談員としてのスキル向上のための勉強会を実施しています。現在は、外国人の子どもたちに焦点を当て、外国人の子どもがおかれている環境と課題について勉強しています。

今後は、他の事業と連携して、生活相談員の経験とスキルを活かせるような活動を検討していきたいと考えています。



助 成 金

佐倉国際交流基金が開設された昭和63年(1988年)から助成金制度があります。これは、国際交流・親善・国際理解を促進し、多文化共生社会の実現に役立つと判断される、佐倉市の諸団体、諸グループの活動に対し、助成金を支給するものです。佐倉市民や佐倉市の団体の実施する国際相互理解・交流・親善活動の向上を図るためのもので、地域の国際相互理解の振興に寄与することを目指しています。

残念ながら、昨今の金利動向の影響を受けて、基本財産運用益の大幅な減少に直面している交流基金としては、助成金として支給する金額を年々少なくせざるを得ない状況が続いていますが、今後も助成金を通して佐倉市民および団体の活動を応援していきたいと考えています。



最近の助成金の主な支給先は次の通りです。

- ・佐倉日蘭協会(オランダ児童交流)
- ・佐倉市日中友好協会(草の根交流)
- ・佐倉ジュニア合唱団(台湾での交流)
- ・OK さくら(ネパールの子ども支援)
- ・外国語・外国文化研修事業 など

賛助会員

公益財団法人 佐倉国際交流基金では、国際交流活動に賛同し、それを応援する賛助会員を募集しています。賛助会員には、次のような特典があり、国際交流活動に参加するチャンスもあります。会費は、公益財団法人 佐倉国際交流基金の活動資金として利用されます。多くの法人、団体、市民の皆様に賛助会員として、佐倉国際交流基金をご支援いただいています。



会員特典

- ・佐倉市の国際交流活動についての情報「SIEF Letters」の郵送
- ・佐倉国際交流基金（SIEF）主催のイベントの開催詳細情報をメールでご連絡
- ・賛助会員には、次のような割引制度があります。（個人会員のみ）
 1. DIC 川村記念美術館入館料の割引（団体料金）
 2. 市民音楽ホール主催のコンサートチケット割引（10%）
 3. 国立歴史民俗博物館入場料の割引（団体料金）



会費（年額）

団体・法人会員・・・1口	10,000 円	外国人会員・・・・・・1口	1,000 円
個人会員・・・・・・1口	2,000 円	学生会員（22歳未満）・・・1口	1,000 円

ボランティアバンク

佐倉国際交流基金ボランティアバンクでは、ボランティアを必要とする方とボランティアをして頂ける方との橋渡しをしています。

- 外国語の通訳を探している
- 在住外国人の日本語学習のお手伝いをしたい
- 国際交流イベントの準備のお手伝い・・・・など

バンクの利用は、事務局へ希望・条件をお伝えください。登録者の中からご紹介をいたします。バンクの登録は、所定の登録申込書によりお申込みください。

詳しくは、**SIEF HP** (<http://www.sief.jp>) をご覧ください。

【編集後記】

30 周年という節目にこの記念号を発行するにあたり、各運営委員長を始めとして、多くのボランティアの皆様にご多大なご協力をいただけてきたことを改めて実感し、心より感謝申し上げます。

近年増え続ける外国人居住者との関わりなど、SIEF の活動もその主眼の置き方が変化してくると思いますが、引き続き様々な情報を発信して参りたいと思います。今後ともご支援をよろしくお願いいたします。（HY・JA）

公益財団法人 佐倉国際交流基金 事務局 (SIEF)
〒285-0025 佐倉市鎗木町 198 番地 2 レインボープラザ佐倉 2F
電話・Fax 043-484-6326 (月～金 9:00～17:00)
HP: http://www.sief.jp Email: info@sief.jp